

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

8月号(NO23)通巻 173号

2020年8月10日(月) 山の日発行(毎月10日)

【農暦】コロナ禍に雨降りである。ストレスは想像以上！

○豪雨被災のニュースが続いた中旬までは7割方が雨降りです。晴れはほとんどない。梅雨明けは暑いと思っていたが予想通りの酷暑である。コロナの2次感染拡大は予想されたが、これ程とは思わなかった。コロナ禍に雨降りである。ストレスは想像以上のものがあるように思えてならない。農作業は、ままならずで、草の繁茂だけが気になる。

○コロナ対策の朝令暮改はあっても良いが、チグハグは止めて欲しい。失策続きに思えてならない。コロナの枕言葉を外せば選挙演説と間違えてしまいそうである。コロナ感染状況、対策、結果、協力要請など、寄り添ってと云うが、空疎に聞こえてしまう。感染者の母数のPCR検査数の説明もなく(最近はあり)感染人数の発表を続けている。怖さが募るばかりである。日本固有の国民性なのかも知れないが、自粛警察と言われる盲動も起きている。

○ドイツのメルケル首相のコロナ対策についての演説(3/18)の翻訳文を、送って頂いたものが手元にあったので、改めて読んで見た。気になった一文を引用する。『開かれた民主主義に必要なことは、私たちが政治的決断を透明にし、説明すること、私たちの行動の根拠をできる限り示して、それを伝達することで、理解を得られるようにすることです。』とあった。日本のコロナ施策とは姿勢が全く違う。ネットでも見られるので、読んで頂きたい、お薦めしたい。コロナは、今一番の関心事である。土楽6月号でも触れていた。

○コロナ自粛に、雨降りでは気力も上がらない。それに、雨で草の繁茂力はいつもより旺盛である。今月は草刈りだけだったような気がする。鳥害に雨降りなどで、黒豆、小豆、落花生は発育不全で、今から不作が予想される。薩摩芋だけは元気が良い。トマト、茄子、胡瓜も不作である。

○畑で生育が悪いのは、雨降り、鳥害もあるが、問題は土にあるようだ。暫く堆肥を入れていない。先日ご近所さんから肥料不足ではと言われ、気が付いた。基本を忘れていた。

○蔓植物の繁茂はもの凄い。先ずは草刈りだが、菜園を良いものにしたい。(了)

【楽農】<畑>ブルーベリー、トマト、茄子、胡瓜、ピーマンを少々収穫。草刈り。

【楽市】イベントなど；詩吟会(30日)共生の会、川柳の会(6日)。



<ミニトマト>雨で今一つ。実割れ、葉枯れなど。7日撮影



<黒豆小豆、葱、薩摩芋>晴れて表土乾燥。7日撮影

【つぶやき=Tweet】今を生きている我々が歴史になる。！

○川柳の講座を機に川柳の会が始まった。既に3年続いている。最近川柳はちょっとしたブームになっているように感じる。新聞掲載を良く見る。時機を逸せず、その時々を詠まれている。時機外れもあるが、習作の控えに以下の句があった。“今の世は理念なくして孤はびこる”“ジェイアラート何時からなった戦時国”“核抑止禁止以外は同じ道”“語れない不戦の誓い忘れたか”言いたいことを詠んでいた。

○被爆75年の広島、長崎の原爆の日を迎えた。原爆語り部の活動も孫世代になる。若い女性の活動には心強いものがあった。“太陽の子”のテレビ放映にも期待している。子供の頃と今社会は悩みの質が変わったように思える。闇が深いと思う。

○60、70年安保、ベトナム反戦、学生運動、公害運動など膨大な市民エネルギーがあった。歴史になりつつあるが、あのエネルギーは何処へ行ってしまったのだろう。今の社会と断絶があるように思えて寂しいものがある。

○原爆の語り部のことで、考えてしまった。私には、ガダルカナル海戦で戦死した叔父、横須賀海兵団の予科練に、船が無く生還した叔父がいたのだと。予科練のことはよく聴かされていた。終戦後を生きた我々の時代を次世代に繋がらないで良いのだろうかと思ってしまう。農から外れた事が多いが、戦後は農地解放から始まったのだった。菜園のブームはこの流れの末端にあるのだと思う。そう思うと安易であってはいけないのかも知れない。

○コロナ自粛のステイホームは、読書習慣のないものには、良い機会になった。司馬遼太郎の「この国のかたち」1～5を読了していた。読み始めのことは土楽5月号で書いたが、歴史がいかにか創られて来たかを教えるものだった。20代の頃に、司馬遼太郎の「燃えよ剣」「世に棲む日日」を読んでいた。幕末に散った土方歳三と明治維新の先駆けて礎になった吉田松陰のもので、感銘を受け、心に残った。土方歳三の人物像には憧れた。吉田松陰がいたから幕末の志士が育ったのだ。土方は五稜郭で、34歳で討ち死に、松陰は29歳で刑死している。短い人生の中で数倍生きているように見える。歴史を動かしている。平均寿命は延びているが、既に倍以上生きている。

○歴史には礎になった人と歴史の成果物を享受する人があるようだ。徳川のお殿様（家斉）の中には子作り（子53人内、成人したのは26人）が仕事？だと云った人がいた。連綿と命が繋がっているから今がある。今を生きている我々が歴史になる。「この国のかたち」は歴史の繋がりを洞察するものだった。近代の処では考え方を異にする処があったが再び司馬ファンに。大切にしたい本である。（了）

○断捨離考：“貧乏人の物沢山”という。やはりと思う。少しずつでも継続。

【後記】 コロナは長期戦に、ストレス解消。何か前向きに。 **【編集せずランダム構成】**



<薩摩芋>蔓ものの元気。
7日撮影

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話：090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com